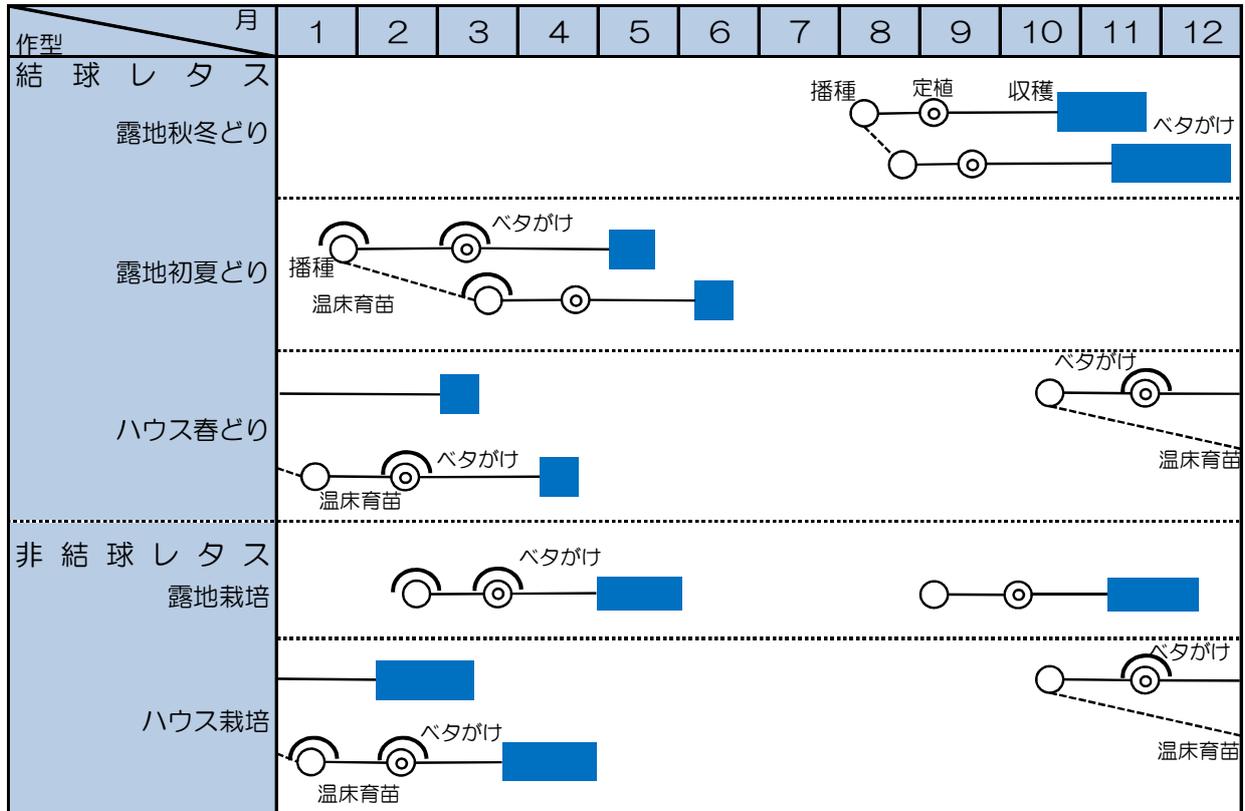


# レタス (キク科)

高温・長日条件で抽台する。生育適温は20℃前後で、涼しい気候を好む。



## 1) 適地

冷涼な気候を好み、よく生育して結球する適温は15~20℃です。25℃以上になると正常な生育をしなくなります。また、レタスは酸性土や痩せた土を嫌います。堆肥を十分施して土づくりを行い、苦土石灰を施して土の酸度を矯正しておきます。

## 2) 品種

結球するものやしないもの。長く育てると半結球になるものなど、いろいろな品種があります。また、日本のかきちしゃもレタスの一種です。

結球レタス：パークレー、シスコ、マリア、極早生シスコ

リーフレタス：レッドファイヤー、グリーンウエーブ

サラダ菜：岡山サラダナ、ウエアヘッド

その他：マノア、コスレタス、ステムレタスなど

## 3) 作り方

【播種】種子はセルトレイに播きます。使用するセルトレイは、育苗期間が短い温暖な時期（30日未満）は200穴を、育苗期間が長くなる秋～春播き（30日以上）は128穴のものを使用します。種子はあらかじめ催芽すると発芽がよくなります。催芽の方法は、種子をガーゼで包んで一晩水に浸漬し、水を切ってポリ袋に入れ、1~3日冷蔵庫に入れておきます。セルトレイへは、1穴に3粒くらいになるように播き、覆土は種子が少し隠れる程度に薄くします。発芽まで乾燥させないように注意してください。

【育苗】高温期の播種では涼しい場所で管理し、低温期の播種では最低 18℃くらいを保てる温床で管理します。本葉が 1~2 枚展開したら 1 本に間引き、市販の液肥を 500 倍程度に薄めて 5 日おきに与えて育苗します。

【圃場の準備】定植の 1 か月前に 1 m<sup>2</sup> 当たり堆肥 2 kg、苦土石灰 100 g、BM ようりん 30 g を施用し、深く耕しておきます。定植 1 週間前に高度化成肥料を 1 m<sup>2</sup> 当たり 100 g 施用し、幅 140 cm の畝を立てます。レタス用の穴あきマルチを利用すると雑草が抑えられるとともに生育も揃います。8 月から 9 月に定植する露地の作型では白色のマルチを、低温期に定植する露地やハウスの作型では緑色の透明マルチを用います。

【定植】本葉が 3~4 枚くらいになったら本圃へ定植します。1 畝 4 条植えとし、結球レタスは株間 30 cm、リーフレタスは株間 25 cm、サラダ菜なら株間 20 cm に定植します。また、あらかじめ穴あきマルチを張ってある場合は、その穴の場所に合わせて定植します。低温期にハウス内や露地に定植する作型では、定植直後から不織布によるベタがけを行います。

【追肥】定植の 15 日後と 1 か月後に、1 m<sup>2</sup> 当たり 30 g の高度化成肥料を条間に施用し、軽く中耕します。マルチ栽培では追肥は施用しません。

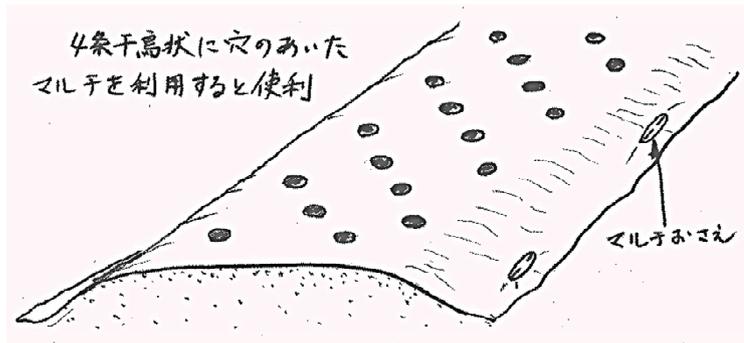
【トンネル被覆】結球レタスが 12 月になってもまだ十分結球しない場合は、ビニールでトンネル被覆をして結球させます。リーフレタスも霜が降りるようになったら、不織布などでベタがけすると品質のよいものが収穫できます。

【収穫】結球レタスは頭部を押して堅く感じる頃、サラダ菜は心葉が内側に巻いてきたら収穫適期です。結球レタスは結球が進むほど寒さや暑さ、病気にも弱くなりますので、とり遅れないように注意します。

#### 4) 病虫害防除

病害では、菌核病、すそ枯病、灰色かび病、腐敗病などが発生します。多発してから防除をしても効果が劣るため、定期的に予防散布します。害虫は、ネキリムシ、アブラムシ、ナメクジの発生がみられます。定植時や発生初期に防除することが大切です。

また、近年では定植前にセルトレイに灌注処理する殺虫剤も出ていますので、これを使用すると初期の害虫を効果的に抑えることができます。



穴あきマルチの張り方



菌核病